

## 東日本大震災 10 年を経て

合気道道主  
植芝 守央

東日本を千年に一度と言われる M9 の地震と想定をはるかに超える巨大津波が襲い、広範囲、未曾有の被害をもたらし、福島原発事故により放射線と言う目に見えぬ凶器が被災地の方々を苦しめた東日本大震災から早くも 10 年の歳月が経ちました。

想像を絶する津波の脅威を映像でのみ見た私ですが、何が起こってしまったのか瞬時に理解することが出来ず、ただただ無事を祈ることしか出来ませんでした。合気道の会員にも犠牲になられた方々がいらっしゃいます。ここに改めて、被災地の皆様に心からお見舞い申し上げるとともに、犠牲となられた方々のご遺族、関係者の皆様に心より哀悼の意を表します。

私達は未曾有の災害の悲しみと絶望の中に人々の愛、日本人の心と誇りをしっかりと確認することができました。津波は日本人の絆・支え合う心・職務への責任感、誇りを押し流すことが出来ませんでした。かつてない災害に見舞われた被災地でお互いをいたわり合い、支え合える尊い心で復興へと立ち向かい 10 年という歳月を歩まれたのです。また、海外の会員の方々からの温かい支援と励ましは、まさに合気道の輪・和合の精神そのものを感じさせてくれました。

この 10 年の間に、日本はたびたび各地で地震・大型台風・豪雨等自然の猛威にさらされてきました。しかし、そのたびに人々は支え合い復興に立ち向かっています。利便性を追求し続ける人間は、自然災害によって困難にさらされることで人としての絆と思い合う心、支え合う思いやりを思い起こしているように感じます。

復興に立ち向かわれている被災者の方々、今後起こり得る災害に対しても、現在コロナ禍にある私達ですが常に合気道の精神を失わず、和合の心で進んでいけることを願っております。

最後に、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、今なお原発の至近で命懸けで作業をされている方々に感謝し、復興のために日々努力を続けていらっしゃる方々に心からエールを送らせていただきます。